

### 1 Park-UP事業の目的

地域主体の柔軟な管理運営を、民間企業等の多様なサポート団体が運営支援することにより、公園の魅力向上を目指すとともに、地域コミュニティの活性化など、地域課題の解決や価値向上に寄与すること

#### Park-UP事業を通じて実現したい公園の未来像

- 公園の柔軟な運営方針の下、子どもの遊び場、多世代が交流する場としての魅力向上へ
- 公園を拠点としたまちづくりにより、地域の新たな価値の創出や地域課題を解決
- 公園の管理運営の担い手を広げ、つなぎ、育てる
- 公園からまちに愛着を持ち、住みたい・住み続けたいと思う人を増やすことで定住人口の増加へ

### 2 対象となる公園

建設局管理の公園のうち、主に近隣居住者の利用を目的とした住区基幹公園（街区公園、近隣公園、地区公園）

### 3 Park-UP事業の特徴

**特徴1** 地域主体の柔軟な公園の管理運営を担う組織（公園運営委員会）の設立

### 4 Park-UP事業の流れ

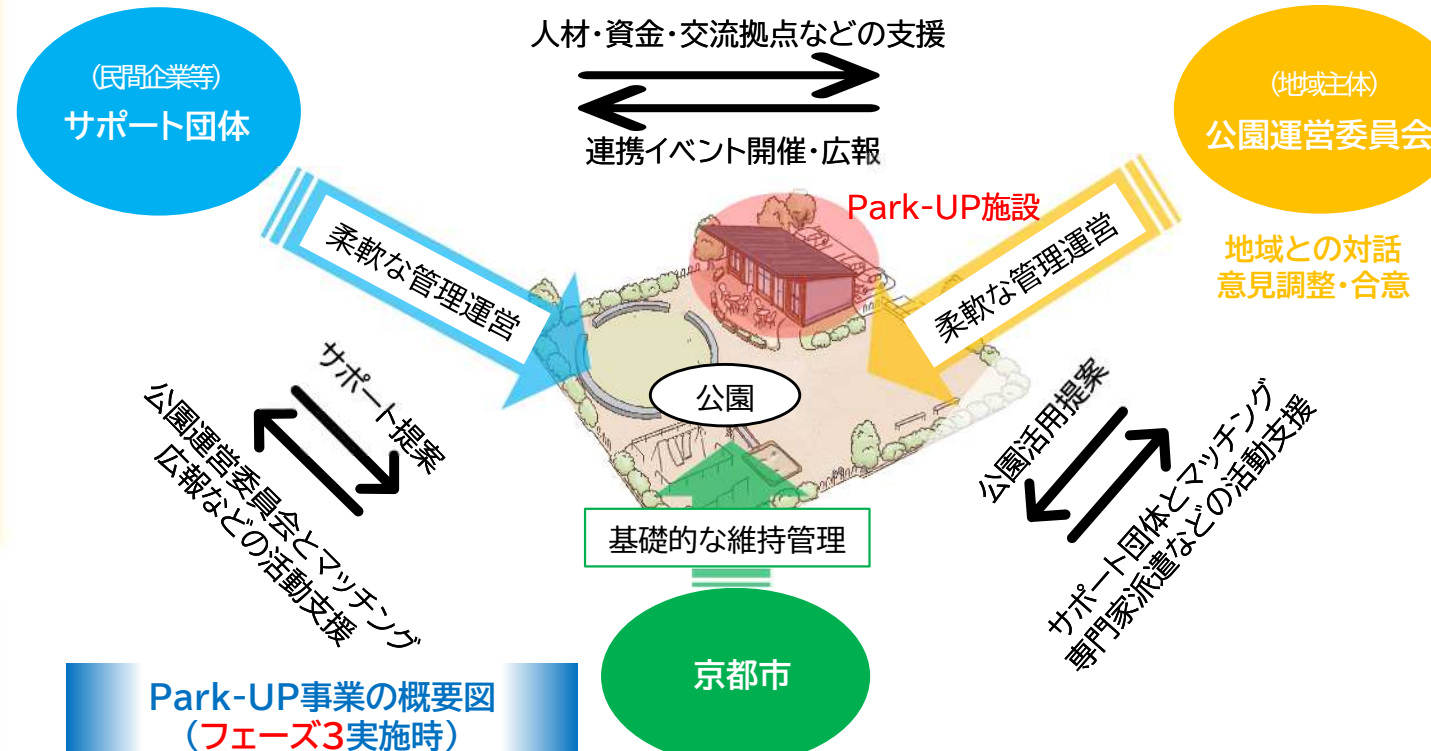
#### フェーズ1 地域主体の公園の管理運営

実施者：公園活用の提案主体（地域）

- きっかけ(例)
  - ・公園愛護協力会のメンバーを増やしたい！
  - ・公園でボール遊びをしたい！ など
- 主な取組ステップ
  - ・京都市に公園活用の提案
  - ・一緒に考える住民の範囲（利用圏域）設定
  - ・運営方針や利用ルールを話し合う
  - ・地域に周知しながら合意形成
  - ・公園運営委員会を設立

**地域主体の公園の管理運営をスタート**

(京都市の役割)  
まちづくりの専門家を派遣し、地域を支援



**特徴2** 民間企業、大学、NPOなどの多様なサポート団体が、地域の活動を支援

**特徴3** 更なる公園の活用、持続可能な管理運営を目指し、Park-UP施設の設置を可能に

#### フェーズ2 多様なサポート団体との連携

実施者：公園運営委員会、サポート団体

- 柔軟な管理運営の取組(例)
  - ・清掃活動などで、公園をきれいに
  - ・地域交流のためのイベント開催 など
- ↓ (人手が足りない、資金がない、人が集まらない)
- もっと充実させるには・・・

**必要に応じ、サポート団体との連携**

↓ (公園の楽しみ方を広げる)

- ・公園運営に携わる人を増やす
- ・多世代が楽しめるイベントの開催

(京都市の役割)  
公園運営委員会からの要望に応じ、地域が必要とするサポート団体とマッチング

#### フェーズ3 更なる公園の活用

実施者：公園運営委員会、サポート団体

- 主な取組(施設の要望・検討)
  - ・地域の人が集まれる交流拠点
  - ・雨の日でも使える休憩施設

**Park-UP施設の設置**

↓ (収益の一部を公園運営委員会に還元 ハード・ソフト両面で支援)

**〈更なる公園の活用・地域課題の解決〉**

- 主な設置条件
  - ・地域の合意を得ていること
  - ・別途定める設置ガイドラインに適合（機能、配置、構造等を規定）
  - ・公園運営委員会、サポート団体が適切な管理運営実績を有すること など

#### Park-UP事業取組の背景

公園が抱える課題

- ◎ 公園施設の老朽化
- ◎ 維持管理体制の継続困難（公園愛護協力会の高齢化 担い手不足など）
- ◎ 多様化する利用者ニーズ（様々なニーズや苦情等 画一的な利用ルール設定 禁止事項・規制が多い）

公民連携公園利活用  
トライアル事業(R3~R5)

- ・地域や民間企業等とともに、柔軟な利活用を試行的に実施
- ・一定の成果を得られた一方で、課題(人材・資金・交流拠点)も

#### Park-UP施設とは

公園運営委員会、サポート団体が設置、管理、運営する公園施設で、以下の機能を備えるもの

- ・公園利用者の交流スペースの機能
- ・イベントスペースの機能
- ・物品等の保管スペースの機能

※柔軟な公園の管理運営に資すると認められる店舗などの便益施設等を併設することも可能

